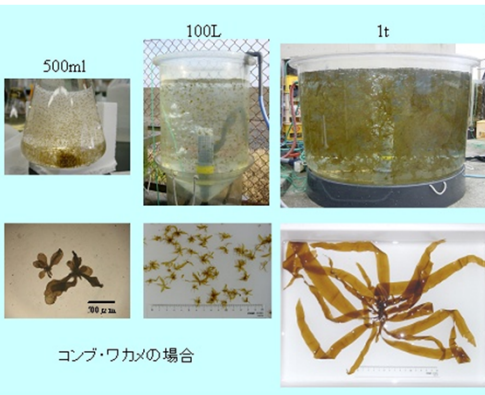
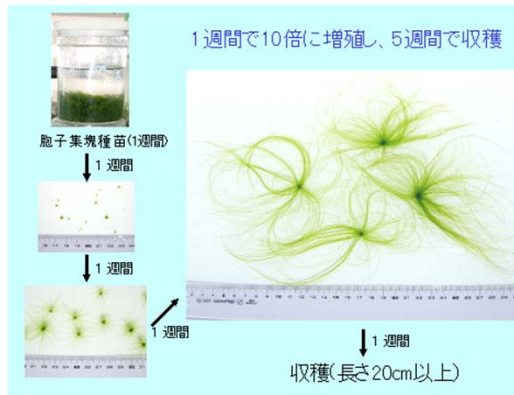
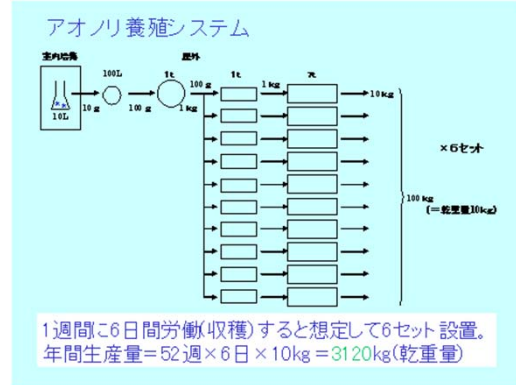
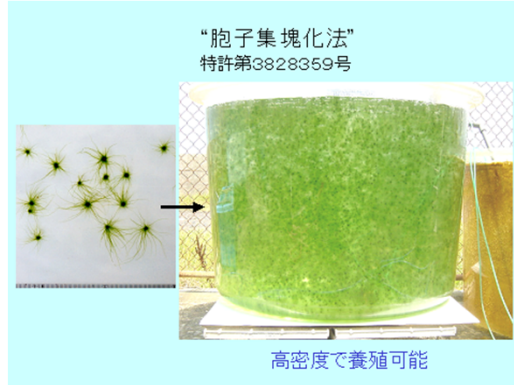


室戸海洋深層水を利用した新規海藻養殖法の開発

高知大学 総合研究センター 准教授 平岡 雅規

○研究シーズ概要

近年沿岸域の汚染、埋め立て、海水温上昇などの環境変化および漁業者の老齢化により、海藻生産が困難な状況にある。そのような中、陸上栽培には、異物混入のない安全性、安定した生産性などの利点がある。一方で、陸上栽培施設の運転には生産コストがかかるため、なかなか実現しなかった。そこで、生産コストの低減を図るため、水槽内で高密度で海藻を生産できる「孢子および発芽体の集塊化による海藻養殖法」(孢子集塊化法)を開発し、様々な海藻で事業化レベルの陸上栽培を可能にした。その実例が、室戸海洋深層水を利用した深層水アオノリの栽培事業である。2004年に設備が完成し、当初は新規事業ということもあり運用に多くの問題を抱えて赤字が続いていたが、6年目に入って黒字化しつつある。この技術はアオノリだけでなく、アマノリ、ワカメ、コンブ、ハバノリといったこれまで困難であった海藻にも適応でき、実証試験では良好な生育が確認されている。現在、さらなる生産コスト削減を目指し、企業と連携しながら海藻栽培用の新型水槽を開発中である。



(高知新聞2008年2月7日朝刊より)

<応用範囲/今後の展望>

アオノリ、アマノリ、ワカメ、コンブ、ハバノリなどの海藻で応用可能。/深層水だけでなく地下海水を利用した陸上栽培も研究開発中。